月刊税理士事務所チャネル

CHANNEL

2020
1
No.461

ミロク会計人会連合会 役員
ミロク情報サービス代表取締役社長　年頭挨拶 …… 2

「第44回全国統一研修会 函館大会」開催報告 …… 6

ミロクシステムQ&A
『法定調書』…… 17

今月の表紙：宮島と初日
場所：広島県廿日市市

日本の未来ー
企業を支える
ミロク会計人会
https://www.mirokukai.ne.jp/

ミロク会計人会連合会

役員メッセージ

Executive Message 2020

2020年、新しい年を迎えました。ミロク会計人会の役員の先生方に、
新年を迎えての抱負や会員の皆様へのメッセージなどをご寄稿いただきました。

ミロク会計人会連合会 会長
金子 秀夫

2020年のキーワード
国境（くにざかい）の
目立たぬ世界に

[新年を迎えて]

皆様、新年おめでとうございます。元号が変わってはや8カ月、令和がすっかり定着し、平和な光の中で初春を迎えることができました。

昨年は我々にとって消費税改正、それも未経験の複数税率導入という重い対応を迫られましたが、大きな混乱なく過ごすことができました。その中で課題も見えてきましたので、真摯な取り組みを続けていきたいと存じます。

[今年の本会に期待すること]

昨年は、本会の財政的基盤の一部が損なわれるのではないかと危惧された年でありました。いわゆる節税保険の規制と称する行政指導で、従来型の雑収益が見込めなくなったことによります。これについては、MJSとの一層の協力関係を進め、その成果を本会の財務に反映させるよう図り、対応することになりました。そこで本年は、MJSの業務活動に側面的に協力しつつ、財政的基盤を再構築することが急務であると考えます。

[個人的な抱負、目標]

今年は平和の祭典、東京オリンピック・パラリンピック大会が開かれます。誰しもが国境を越えた、友好、親善、安らぎを求めます。

愚作ですが川柳を一句。

やすらけく　オリンポスの火　諸人（もろびと）に

九州会会長
大久保 昌逸

2020年のキーワード
少子高齢化

[新年を迎えて]

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましてはお健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年は子年、これから子孫繁栄のために成長を始めようとする種子の状態を表しているそうです。私たちにとっても昨今の経営環境の変化に対して、今までに抑え蓄えてきた力を全国の仲間と手を携え未来に向かって解放する年となるよう祈っております。

[本年秋の統一研修会に向けた意気込み]

本年の第45回全国統一研修会は、九州会が担当させていただきます。

開催地は熊本市とし、4年前に全国の皆様からいただいた温かい励ましに感謝しつつ、蘇った街と復興中の熊本城を観ていただき、参加してくださった皆様が元気になる研修会に致します。清らかな水が湧く、火の国　熊本へ　おいでなはりまっせ!

[個人的な抱負、目標]

「健全なる精神は、健全なる身体に宿る」という慣用句があります。老年者と呼ばれる年齢に達して（自分ではそうは思っていませんが）、この言葉の意味が解るようになりました。物欲よりも健やかな心身でいたいと切に願う今日この頃であります。

北海道会会長
中村 泰道

2020年のキーワード
日進月歩

[今年の抱負]
北海道会会長としては、会計人会の持つポテンシャルを如何にして会員の皆様のメリットに転換することができるかを模索する。個人としては、健康維持と体力向上に努める。娘の幼稚園の若いパパさんたちに負けないように。

[会員に向けてのメッセージ]
全国統一研修会 函館大会にはたくさんの皆様にお越しいただき、ありがとうございました。
本年も温かく、心強いお力添えをいただけましたら幸いでございます。よろしくお願い致します。

関東信越会会長
畔上 洋

2020年のキーワード
英知の結集

[今年の抱負]
会務運営に関して、役員だけの会からの脱却を目指し、若い人たちの積極的意見を取り込める仕組みづくりに努めたい。個人的にはボランティア活動組織を立ち上げたい。

[会員に向けてのメッセージ]
会員相互の情報交換の場として当会を積極的に利用していただき、顧問先企業に寄り添った信頼される事務所運営に邁進されたい。
日々変化する現在、果敢に攻める姿勢が我々に求められているのではないでしょうか。

[今年の抱負]
良きにつけ悪しきにつけ、東京オリンピックに振り回される年になりそうですので、それに惑わされることなく、自分の足元をしっかりと見据えつつ、課題を捉え、まずはできることから確実にやり遂げる心構えでこの一年に臨む所存です。

[会員に向けてのメッセージ]
東京オリンピック後の景気の落ち込みを最小限に食い止めるべく、会員皆様の英知を結集していかねばなりません。顧問先様の経営課題と真正面から向き合うことにより、解決策が見えてくるものと思います。先生方のこの一年のご健勝をお祈り致します。

東北会会長
福嶋 朗

2020年のキーワード
人手不足

北陸会会長
常山 明夫

2020年のキーワード
クラウド

[今年の抱負]
変化が生まれる状態・きざし始める状態を意味する庚子の今年。できる限り企業側の要望に沿うべく「クラウド会計に強い税理士」を抱負として掲げたいと思います。過渡期とされるこの機に、自身がクラウド会計に精通し対応できるようチャレンジしたいと思っております。

[会員に向けてのメッセージ]
クラウド・フィンテック・AIなどのワードが飛び交い、消費税率の引上げ・軽減税率の導入と、新しく変化していく昨今ですが、我々は関与先企業に信頼され喜ばれる立場でなければなりません。この環境を冷静に受け止め、的確なサポートに積極的に取り組んでいきましょう。

東京会会長
馬場 英晶

2020年のキーワード
困難から逃げないで
立ち向かう

[今年の抱負]
会計事務所はコンサルタントではありません。顧問先企業から出された数字の根拠を基に、経営課題について社長と一緒に考える伴走者であることが重要です。

[会員に向けてのメッセージ]
昨年秋の全国統一研修会 函館大会には、全国から多くの皆様にお越しいただき、誠にありがとうございました。
本年も引き続き、温かく、心強いお力添えをいただけましたら幸いでございます。よろしくお願い致します。

近畿会会長
植田 卓

2020年のキーワード
今年は
スマホ申告元年

［今年の抱負］
「初夢で見た○年後の納税」
個人申告は年末調整が廃止され全員が申告するようになりましたが、多くはマイナポータルでデータを収集してスマホで申告して終わっています。源泉徴収は給与振込の際に自動的に納付が完了しています。さて、消費税の計算と法人申告は？
［会員に向けてのメッセージ］
「電子申告はもう古い!?」
電子申告や電子納税はかなり進んできましたが、あくまでパソコンレベルです。今年からはスマホによる申告も部分的に始まります。納税環境は2020年から本格的にWEB環境に移行していくと思われます。積極的な情報収集が必要です。

中部会会長
山内 今朝男

2020年のキーワード
オリンピックと
その後

［今年の抱負］
日本の人口の年齢別構成は、67歳～71歳がトップ、二番手に42歳～46歳、三番手に47歳～51歳と続いております。全国大会は、年齢に拘らず参加者の楽しい交流の場となり、仲間意識が芽生え、あらゆる分野での承継が進んでいくと感じております。今年も多くの参加者と楽しい時間を過ごせるよう期待しております。
［会員に向けてのメッセージ］
生産から流通の現場にAIが活用されることにより、最近の経営手法は目まぐるしく変化しております。いわゆる、事業者の棲み分けがなくなり、生き残りが非常に厳しい時代に突入しました。そのリスクに対する対策の提供が求められています。リスクマネジメント推進委員会の活動は、今一番重要な時ではないでしょうか。

［今年の抱負］
リーマンショック級の変動があれば中止、と言われつつ消費税増税が実施されました。皮肉なことに、増税の後それ以上の変動が起こりそう。
税理士はどう動くべきか、本年は税法では解しきれない状況になるのは必至。嵐の前の静けさに注意!
［会員に向けてのメッセージ］
香港の民主化運動では、既存メディアより、SNSの情報がダイレクトに世界に伝わっていました。経済界は銀行業務が衰退し、ネットでの直接金融にシフトしようとしています。その例を見るまでもなくわが業界も、ネットで激変する世界を注視していかねばなりません。

四国会会長
木村 幸博

2020年のキーワード
今後のビジネスは、
スモール化

中国会会長
吉井 利幸

2020年のキーワード
なれる最高の
自分になる

［今年の抱負］
今年の抱負としまして中国会は、「MJS AI監査支援」など新しいものにどんどん取り組み、発信します。自計化している顧問先にもデータ取り込みをさせて経理部門の人手不足解消に貢献すれば喜ばれるはずです。
顧問先をリードできる事務所になれるような情報を共有していきたいです。
［会員に向けてのメッセージ］
AI、フィンテック、RPAが進めば進むほど、誰がやっても同じ記帳サービスがそぎ落とされます。結果、税理士の個性が浮き出てくる時代に突入します。中規模以上の事務所ほどサービスで個性を出さないといけない時代となります。
自社がどこで尖がるかがポイントです。

沖縄会会長
波平 正

2020年のキーワード
東京オリンピック

［今年の抱負］
個人の目標は、①心身ともにゆとりある仕事をすること、②山歩き、山登りをすること、③ゴルフのスコアを縮めること。会計人会としての目標は、会員の交流を深める施策を図り、会の活性化、ひいては会員増加に結び付けることです（研修会、食事会、アクティビティ等）。
［会員に向けてのメッセージ］
会の活性化を第一の目標と位置づけて、研修会をはじめ会活動のご案内を致します。多くの会員、会員事務所職員のご参加をお待ち申し上げます。会務運営、活動についてもどしどしご提案をお願い致します。

連合会監事
井上 泰一

2020年のキーワード
凡事徹底し
平常心で事に対する

[今年の抱負]
昨年の消費税改正で、複数税率の採用をはじめ、税制が大変複雑になってまいりました。このような状況の中、私たちが仕事を行う上で、MJSのシステムは必要不可欠なものになっております。クライアントに対して、これらのシステムを使ってより正確で充実したサービスを提供していきたいと思います。

[会員に向けてのメッセージ]
私たち会員にとってMJSシステムの大きな魅力は、優れたシステム本体はもとより、「会員向けの充実した研修制度」と「TVSの様々なサービス」であると思います。これらサービスの良さをユーザーに広く知らしめ、会員増強を図っていければと思っております。

連合会監事
林 伸三郎

2020年のキーワード
No Side

[今年の抱負]
連合会監事としての抱負は、業務監査に力を入れたい。「連合会の任務と会務運営」について、小委員会・委員会・理事会・正副会長会・総会は有効に機能しているか、単位会との連携は、また事業計画の進捗とその費用対効果は…。

[会員に向けてのメッセージ]
税理士会員向け認定研修制は定評があります。税務・会計・電子申告等のソフトは会計人会（会員）とMJSとの連携により、業界の先頭を走り続ける最強のシステムです。どしどし提言し研鑽し参加しよう、自己の成長と会計人会の発展のために!

株式会社ミロク情報サービス
代表取締役社長
最高経営責任者
是枝 周樹

2020年のキーワード
顧問先とのさらなる情報連携を支援します

[新年を迎えて]

新年明けましておめでとうございます。先生方におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は第44回全国統一研修会が函館にて開催されました。歴史と異国情緒漂う北の町、函館に多くの先生方にお集まりいただき、ミロク会計人会の結束の固さを再認識致しました。

昨年10月の消費税率の改正と軽減税率の導入、キャッシュレス決済の進展、働き方改革など、中小企業をめぐる環境は変化のスピードを速めています。顧問先が最適かつタイムリーな支援を受けられるよう、会計事務所への期待はますます高まっていると言えるでしょう。

[MJSの目指すもの]

AIやフィンテックなど、会計業務にも技術革新の波が押し寄せています。それらの技術を利用しながら、ファイナンス全体を通して、まさに中小企業のCFOとしての役割が、会計事務所にはより強く求められてくると感じます。

MJSは、ERPシステムを核に顧問先の業務効率化を支援する多彩なクラウドサービスの普及などを通じ、会計事務所と顧問先が、よりタイムリーかつ的確に情報連携できる関係づくりを目指しています。これにより、会計事務所と金融機関などが連携した多彩なファイナンスサービスの実現に向けたお手伝いをしていきたいと考えております。

本年も、会計事務所と顧問先企業のさらなる発展・繁栄に資する製品・サービスの提供に取り組んでまいります。引き続きご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

2019年10月17日(木)

「第44回全国統一研修会 函館大会」開催報告

「新・維新～ようこそノスタルジック函館へ～」をテーマに開催され、８４６名が函館に集結!!

10月17日(木)、北海道函館市の「函館国際ホテル」にて、ミロク会計人会連合会主催の一大イベントである「全国統一研修会 函館大会」(開催担当会:北海道ミロク会計人会)が、８４６名の参加を得て盛大に開催されました。

式典全景

式典は、午後1時45分から服部 邦彦大会実行委員とアシスタントの土井 みずき氏の司会のもと、中村 泰道大会実行委員長の挨拶により開会。

金子 秀夫ミロク会計人会連合会会長による大会開催のご挨拶の後、麻生 太郎財務大臣からの祝辞を波平 正連合会副会長が代読披露。その後、来賓の奈須野 太中小企業庁事業環境部長および金坂 和正(かずよし)北海道税理士会会長からご祝辞をいただきました。

単位会表彰では、昨年の「第43回全国統一研修会 沖縄大会」を担当された沖縄ミロク会計人会を代表し、波平 正会長が表彰を受けられました。功労者表彰では、このたび任期を終えられた中部ミロク会計人会の石川 光男前会長が表彰されました。

そして、協賛会社であるミロク情報サービスの是枝 周樹代表取締役社長の挨拶があり、宮崎 英彰大会実行副委員長の閉会の言葉で式典は終了となりました。

引き続き行われた基調講演は、久保 且佳大会実行副委員長の開会の言葉でスタート。米カリフォルニア州弁護士でタレントのケント・ギルバート氏に「素晴らしい国、日本の覚醒を待望する!」と題して講演いただき、島元 宏忠大会実行副委員長の謝辞と閉会の言葉で幕を閉じました。

第1分科会では、システム開発委員会の企画・運営による「凄いぞ! 相続税申告書システムの新機能」と題した講演が行われました。司会は島元 宏忠大会実行副委員長が務め、外園(ほかぞの) 令明(のりあき)システム開発委員長が開会の言葉を、宮崎 英彰大会実行副委員長が謝辞と閉会の言葉を述べられました。

第2分科会は、十勝バス(株)代表取締役社長の野村 文吾氏に、「お客さま密着! 十勝バスの経営」と題して講演いただきました。司会は松川 武史大会実行委員が務め、久保 且佳大会実行副委員長が開会の言葉を、本庄 雅人大会実行委員が謝辞と閉会の言葉を述べられました。

第3分科会は、学芸員の木村 裕俊氏を講師に招き、「箱館戦争と碧血碑」をテーマにお話しいただきました。司会を小形 雅晴大会実行委員が務め、石塚 尚史大会実行委員が開会の言葉を、謝辞と閉会の言葉を小形委員が述べました。

第4分科会は、函館観光ボランティア「一會(いちのえ)の会」会長の佐藤 喜久恵氏が登壇し、「ようこそ! イランカラプテ 函館の魅力をあなたへ」をテーマに講演いただきました。司会は大西 啓二大会実行委員が務め、阿部 幸蔵大会実行委員が開会の言葉を、中坪 正芳大会実行委員が謝辞と閉会の言葉を述べました。

壇上の連合会役員

（右から）司会の服部 邦彦大会実行委員とアシスタントの土井 みずき氏

開会の挨拶をされる中村 泰道大会実行委員長

閉会の言葉を述べる宮崎 英彰大会実行副委員長

功労者表彰を受ける石川 光男中部会前会長

単位会の表彰を受ける波平正沖縄会会長

ご来賓席と協賛会社席

ご祝辞

財務大臣 **麻生 太郎** 様
代読　波平 正　連合会副会長

本日、ミロク会計人会連合会主催による第44回全国統一研修会が、北海道函館市において盛大に開催されるにあたり、心からお祝いを申し上げます。

皆様方におかれましては、独立した公正な立場から、納税者を支援して国民の納税義務の適正な実現を図るという公共的使命を果たされる一方、納税の基礎となる記帳や会計処理をはじめ、商取引の面においても指導的な役割を果たされ、中小企業の発展に寄与しておられることに対して、敬意と感謝の意を表します。

日本経済は安倍内閣のこれまでの取組により、名目GDPが過去最高水準となり、また、雇用・所得環境も大きく改善しています。令和元年税制改正においては、新たな個人事業者の事業承継税制の創設、中小企業投資促進税制等の延長等を講じました。税制を通じて、中小企業の事業承継や積極的な設備投資等を支援してまいります。

また、最近の税務行政について申し上げますと、経済活動の国際化や高度情報化等が進展する中、ICTの活用による申告・納付手続の利便性の向上や、適正・公平な課税の実現等を図ることにより、国民からの信頼に応えていくことが重要と考えております。本年10月1日には、消費税率の引上げに合わせ、軽減税率制度が導入されました。国民の理解を進め、その円滑な実施と定着を図る観点から、引き続き、着実な周知・広報や丁寧な相談対応を行ってまいります。また、中小企業・小規模事業者への消費税の転嫁拒否等に対する監視等にも取り組んでまいります。皆様方には、税務行政に対するなお一層の御理解と御協力を賜りますようお願いいたしますとともに、中小企業者を含めた納税者の方々の最も身近で信頼できる相談相手・専門家として、一層指導・助言を賜りますようよろしくお願いいたします。

最後に、貴連合会の益々のご発展と、御参会の皆様方の御健勝をお祈り申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

ご祝辞

中小企業庁 事業環境部長
奈須野 太 様

このたびは第44回全国統一研修会 函館大会の開催、誠におめでとうございます。本日は中小企業庁長官の前田 泰宏より祝辞を預かってきておりますので、代読させていただきます。

ミロク会計人会様におかれましては、長年、中小企業・小規模事業者のパートナーとして、使命感を持って日々業務に取り組んでこられたことに敬意を表するとともに、これまでのご貢献に対し、御礼を申し上げます。

我が国の企業全体の約9割を占め、地域の経済と雇用を支える中小企業・小規模事業者の生産性向上は、日本経済の成長の後押しに不可欠です。中小企業庁では、中小企業・小規模事業者が直面している経営者の高齢化、人手不足、人口減少といった3つの構造変化に対応するために、さまざまな施策に取り組んでいきます。その中でも事業承継の促進については特に重要な課題と考えており、中小企業庁ではこの10年を事業承継の集中実施期間と位置づけて、承継前から承継後まで切れ目ない支援を実施して参ります。

また、10月1日より消費税率が8％から10％に引上げられました。経済産業省としましては、全国の中小企業・小規模事業者の方々が今回の消費税率引上げに円滑に対応できるよう、きめ細やかな支援や相談内容に取り組んでいく所存でございます。

このような制度や取り組みを活用して、経済の好循環を築き全国に波及させていくためにはミロク会計人会様のご協力が不可欠であります。中小企業・小規模事業者が成長に向けて前向きな一歩を踏み出していけるよう、税務会計のプロフェッショナルの立場から、ぜひその後押しをしていただければと思います。

最後になりましたが、本日ご列席の皆様のますますのご発展を心から祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

ご祝辞

北海道税理士会会長
金坂 和正 様

ようこそ北海道函館へいらっしゃいました。第44回の全国統一研修会が盛大に開催されますこと、心からお慶び申し上げます。

我が国にとって最大かつ喫緊の課題は、事業承継問題です。日税連のホームページ内、「税理士会の事業」の中に「中小企業支援」というカテゴリーがあり、その中に「事業承継支援」というページがございます。ここには中小企業庁からの情報提供もふんだんに掲載されていますので、ぜひ参考にしてください。また日税連では、「担い手探しナビ」という事業承継のマッチングサイトを昨年10月から運営しています。セルサイドとバイサイドがインターネットを介してコンタクトがとれるサービスです。また現実問題、M&A支援業者に支払う報酬は非常に多額になります。そうではなくて、規模の小さな企業の事業承継を支援し雇用を守ろうというのがこのサイトの趣旨です。一度ご登録いただき、どのような情報があるかをご覧いただければと思います。

それから、10月より消費税の複数税率が導入されました。そして2023年には適格請求書等保存方式（インボイス制度）が導入される予定ですが、これがどのような影響を及ぼすか、どのような対策が必要かに対する中小企業の経営者のご理解は全く進んでいないと考えます。これらの理解度を促進するためには我々税理士が周知徹底すべきであり、改めて責任の重さを感じています。また、10月から日税連の「税理士情報検索サイト」で研修受講時間の公開が始まりました。ご自身の研修受講時間をご覧になられた方はおられるでしょうか。36時間の研修受講は会則上の義務ですので、ぜひ徹底いただくようお願い申し上げたいと思います。

この全国統一研修会が皆様にとりまして、充実した内容で今後の業務に役立つことを確信しております。皆様のお仕事の今後ますますのご繁栄を心から祈念し、私の挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

ミロク会計人会連合会会長
金子 秀夫

本日の第44回全国統一研修会 函館大会に、多くの皆様にご参加いただき、誠にありがとうございます。また、大変お忙しい中ご来賓の方々にもご来駕いただきました。

私どもがこの函館の地で研修会を開催しようと決めたのは1年余り前です。非常に仲間意識の強い北海道ミロク会計人会の皆さんですから、一丸となって開催まで尽力くださると確信しておりました。結果、当初の予定より3割以上も多くの方からお申し込みをいただきました。この北海道会の皆さんを支えたのが、MJSの社員の皆さんです。1年をかけてサポートしてくれました。ご参加いただいた皆様とともに、感謝の拍手を贈りたいと思います。

さて、元号が変わり令和になりました。令和で初めての研修会が函館で開催されるということで、記念すべき大会となります。平成に続く、平和で人々の暮らしが安寧であることを祈念していますが、大変厳しい時代です。米中の貿易戦争は止まるところを知らず、そしてこれからイギリスがEUから離脱してヨーロッパで大きな経済混乱が生じる可能性もあります。そういった影響を最も早く受けるのが、私たちの顧問先である中小企業です。我々は中小企業の経営者に寄り添い、持てるスキルを発揮していかなければなりません。本日の研修は、来週からの我々の業務に必ず生き、糧になります。ご期待ください。

この函館は長い歴史を持ち、古くから国際的な港町として期待された地であります。また、戊辰戦争では最後の戦いが行われた地でもあります。当時に想いを馳せれば、新しい時代、明治維新を推進する二つの場所であったこと、時代の分水嶺の一つであったことが感じられます。研修会の後には、ぜひ函館の歴史・文化にもふれていただければと思います。

本大会が皆様のお力添えのもと盛大に開催されますことに感謝し、第44回全国統一研修会に寄せる言葉とさせていただきます。

協賛会社挨拶

ミロク情報サービス代表取締役社長
是枝 周樹

本日は、ミロク会計人会連合会主催の第44回全国統一研修会 函館大会に多くの皆様方にお集まりいただきましたことに、心より感謝致します。また、大会準備にあたられた北海道会の諸先生方、ならびにご来賓の先生方に、深く御礼申し上げます。

今大会は、元号が令和に変わり初めて開催される記念すべき大会でございます。晴れ晴れと、また、引き締まる思いの一方、先月からは消費税率の改正、軽減税率の導入、キャッシュレス決済に伴うポイント還元制度が開始となり、税制のみならず時代の大きな変化を感じる大会でもございます。

軽減税率の導入を伴う消費税率の改正。これは言わずもがなでございますが、現在の日本の抱える最大の課題の一つである少子高齢化、それに向けた社会保障財源の確保が大きな目的となっております。そして、もう一つの事象であるキャッシュレス決済。これは、日本がさらなるグローバル化を進めるうえで、また経済の効率化を進めるうえで、避けては通れない道であります。

どちらも、税とお金に関わる歴史的なターニングポイントであり、企業経営においても、個人の生活においても大変重要な意味をもっております。

ここにおられる税理士・公認会計士の先生方におかれましては、税務・会計のスペシャリストとして、これらの課題にどのように対処すべきか。今後ますます、専門的見地から、指導・助言が求められることと存じます。微力ながら、ミロク情報サービスと致しましてもより使いやすく、新たな時代の変化に適応した製品・サービスの提供を通じて、先生方のお役に立つべく努めてまいります。

令和最初の大会となりますこの函館大会が、先生方ならびに職員の皆様方にとって有意義な時間となりますことを祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

井内 敏樹大会実行委員会顧問による閉会の挨拶

挨拶を述べるMJSの是枝 伸彦会長

ケント・ギルバート氏の乾杯のご発声で懇親パーティーは開始

開会挨拶を述べる中原 章博顧問

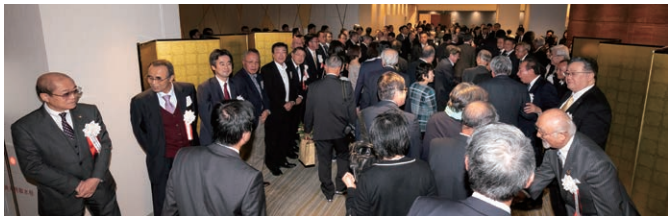
懇親パーティーの司会を務めた浦田 敏仁大会実行委員(右)

力強い音を響かせた「函館巴太鼓」

木村 香澄さんの流麗な歌声、「江差追分」

大久保 昌逸会長をはじめとする九州会の皆様が次期大会への参加を呼びかけ!

YOSAKOI函館学生連合～息吹～による「誠」をテーマにした踊り


連合会・北海道会の先生方とMJSの面々によるお見送り

懇親パーティーは午後6時30分に、歌手の木村 香澄さんによる「江差追分」で幕開けしました。江差追分のルーツは江戸時代から信州中仙道で唄われた馬子唄です。一種のはやり唄として全国各地に広まり、越後に伝わったものは船歌として船頭たちに唄われるようになり、今から200年ほど前に北前船によって江差に運ばれてきたといいます。浦田 敏仁大会実行委員の司会のもと、まずは中原 章博顧問が開会の挨拶を述べられました。続いて基調講演の講師を務めたケント・ギルバート氏が乾杯のご発声をされました。

しばしの懇親と食事の時間を経て、和太鼓チーム、郷土芸能函館巴太鼓振興会による「函館巴太鼓」が行われました。名称の巴は函館港を象徴した函館市の市章であり、また躍動を表す印としても知られています。力強い太鼓の音は会場を圧倒しました。

そして最後の催し物として、YOSAKOI函館学生連合～息吹～による、よさこい祭りの「鳴子」と北海道民謡の「ソーラン節」を合わせた踊りが披露されました。テーマは「誠」で、地元函館と繋がりの深い新撰組をモチーフとし、男子の力強さと女子のしなやかさを表現した踊りは見るものを魅了しました。

その後、ミロク情報サービスの是枝 伸彦代表取締役会長より挨拶がありました。続く次期大会へのお誘いでは、九州会の大久保 昌逸会長をはじめとする会員の皆様が、開催地である熊本の名物キャラクター「くまモン」の衣装やお面をまとって壇上に立ち、第45回の大会への参加を呼びかけました。そして、最後に井内 敏樹大会実行委員会顧問が閉会の挨拶をし、懇親パーティーは終了となりました。

基調講演

素晴らしい国、日本の覚醒を待望する!

弁護士としての知見を生かしつつ、さまざまな角度から日本のあり方を問う書籍を執筆し続けているケント・ギルバート氏。基調講演では、日本という国が持つ価値と日本国憲法について語っていただきました。

講演者 **ケント・ギルバート氏**
米カリフォルニア州弁護士、タレント

1952年米国アイダホ州生まれ。71年米ブリガムヤング大学在学中19歳で初来日、80年大学院を卒業し法学博士号と経営学修士号、カリフォルニア州弁護士資格を取得し東京の国際法律事務所に就職、83年テレビ番組『世界まるごとHOWマッチ』にレギュラー出演し一躍人気タレントとなる。近年は企業経営や講演、執筆活動を行う。主な著書には『儒教に支配された中国人と韓国人の悲劇』(講談社+α新書)が2017年の新書売上第1位、約50万部を記録。その他『まだGHQの洗脳に縛られている日本人』(PHP研究所)、『日本覚醒』(宝島社)、『日本人だけが知らない世界から尊敬される日本人』(SB新書)などの単著はシリーズ化しており、共著を含む著書の大半が出版不況と言われる中でベストセラーとなっている。

要旨

自国の国益を主張する時代

日本は世界史上さまざまな文明や帝国が版図を塗り替えてきた中でも、領土がほとんど変わっていない類を見ない国です。神話の世界も合わせると約2700年の歴史があります。素晴らしい伝統と文化を持っている国であることをぜひ再認識していただきたいと思います。

さて、今日集まっていただいた皆様の中で、「日本は大国だと思う」人はどれくらいいらっしゃるでしょうか。

米国でトランプ氏の大統領就任が決まった時、安倍首相の動きは実に素早く、トランプ氏の大統領就任が決まるとすぐに会いに行きました。というのは、トランプ氏の周辺にいる人たちから呼ばれたからです。その理由は、米国がアジアで信頼できる指導者は安倍首相だけだと判断したからに他なりません。

安倍首相とトランプ氏の初会談は約1時間半かけて行われました。安倍首相は会談時間のうち、80%以上を使ってトランプ氏に中国の脅威について説明したと伝えられています。

トランプ氏を含めて一般的な米国人は日本と韓国、中国の違いがあまり分かりません。そこで、安倍首相はトランプ氏との初会談で、「米国の貿易赤字に関して日本と中国とでは中身が違う」と一生懸命伝えたといいます。私はそこから両氏の信頼関係が生まれたように思います。

安倍首相は米中貿易摩擦の前にもトランプ氏に会いに行きました。その時、トランプ氏は安倍首相に「これから始まる米中貿易摩擦では米国経済とともに日本にも悪影響が及ぶが、大丈夫か」と尋ね、それに対して安倍首相は「大丈夫です。耐えます。これはやらなければいけない」と、トランプ氏の背中を押したといいます。

もちろん、トランプ氏は日本の国益を考えてなどいません。米国の環太平洋連携協定(TPP)からの離脱がそれを示すいい例です。

今は自分の国の国益を主張する時代になっています。自国の国益を主張するのは美徳ではないと反論する人がいますが、外交の世界に美徳は関係ありません。

自国の国益を主張する時代になって、日本も少し対応が変わってきました。いわゆる慰安婦像問題では、韓国は以前、米国の数か所に像を設置することができましたが、今は日本政府が像を設置する情報を得ると事前に設置をやめるよう働きかけています。また、河野前外相がいわゆる徴用工問題で韓国に対し「無礼だ」と述べるなど、日本はこれまでなさなかったような主張をするようになってきています。

「戦後日本」の検証が必要

自国の国益を主張するにあたって、日本は自らの「戦後」を検証する必要があると思います。

第二次世界大戦後、日本を占領した連合軍総司令部(GHQ)は、農地改革や公職追放とともに、全国民に徹底的に戦争の贖罪意識を植え付ける「ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム」を実行しました。これはマスメディアや教育を通じて、武士道や滅私奉公の姿勢、道徳心や愛国心といったものを徹底的に破壊し、日本人の精神の奴隷化を図る洗脳計画です。

同プログラムの柱は、①戦争責任は日本だけにあったと思い込ませる「東京裁判」②日本に生まれたことを誇りに思わせない「教育改革」③武力を用いて国を守るのは悪だと信じさせる「日本国憲法第九条」④検閲を通じてマスコミ情報を統制・管理する「プレスコード」の4つです。

1つ目の東京裁判は、私に言わせれば「茶番」です。東京裁判をナチスドイツを裁いたニュルンベルク裁判と同義と思っている人がいますが、まったく違います。東京裁判ではそれまで誰も聞いたことがなかった「平和に対する罪※」を事後的に作り出しました。弁護士として言っておきますが、このような裁判を行ったのは連合国の恥です。本当に平和に対する罪を裁きたかったら、米国も被告にするべきでした。

2つ目の教育改革は、日本の子どもたちに「日本はアジアをはじめ多くの国にひどいことをしたのだから非難されても仕方ない」「中国や韓国が反日なのも当然だ」「反日行動に対して批判することは加害国として許されない」と思わせることです。結果として、日本人は自国が置かれている状況に無関心になりました。これは民主主義にとっても恐ろしいことです。

3つ目の日本国憲法について述べる前に、憲法には「ドイツ型」と「英米型」の2種類あると申し上げておきます。ドイツ型が君主の一部の権利を国民に付与するのに対して、英米型は国民が全権力を持ち、その一部を政府に委ねる形となっています。さらにもうひとつ大事なポイントは、ドイツ型憲法では「許されていないことは全部禁止」ですが、英米型では「禁止されていないことは全部自由」ということ。日本は明治時代にドイツ型を導入しましたが、戦後GHQが草案を作成した英米型を取り入れました。

GHQが作成した草案の骨子は「貴族制度を廃止」し、「天皇を元首ではなく象徴」とした上で、「憲法9条の第1項と第2項」を規定したところにあります。

憲法第9条の第1項には「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」、第2項には「前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない」とあります。

もし第2項によって国の平和が守られると考える人がいるなら、その感覚は世界的には「異常」です。そもそも平和とは主観的な言葉で、客観的な定義はありません。また、第2項は同じく憲法13条と25条で保障している生存権と矛盾します。

日本は「平和ボケしている」とよく言われます。英語で表現すると、「何の努力をしなくても現在の平和が永遠に続くと幻想を抱いている人」。2つ勘違いがあります。日本は平和ですか、それも続きますか、ということです。「平和」という言葉は主観です。私の主観で言うと、平和国家とはまず国境が確立していないといけません。日本の国土に国後島は、竹島は、沖ノ鳥島は、尖閣諸島は入っていると言えますか。それに国内情勢は安定しているかといえば、そんなことはありません。そう思っているなら沖縄に行ってみてください。厳しい対立が続いています。

4つ目のプレスコードは、新聞をはじめとする報道機関すべてに対し、▽GHQ、東京裁判を否定してはいけない▽GHQが日本国憲法を書いたと明かしてはいけない▽検閲制度の存在を明かしてはいけない▽米国ならびに連合国および朝鮮を批判してはいけないなどの30項目からなります。ちなみに、「神国日本」を宣伝することも禁止されています。

マスコミは戦前、戦中は大本営の言うことを報道しなければなりませんでしたが、戦争が終わってからはGHQが言うことを報道しなければならなくなりました。それ自体は仕方がない部分もありますが、その結果、真実を報道しようする姿勢すら失ってしまったように感じます。

占領政策からの脱却を

日本人はルールをよく守ると言われています。一方で「赤信号みんなで渡れば怖くない」という考えも持っています。では、日本人は憲法のルールを守っているでしょうか。少なくとも自衛隊に関しては国内で解釈に解釈を重ねるだけでなく、「世界を納得させるルール」を設けるべきだと思います。

そのための選択肢はふたつあります。「ルールを再認識し改めて遵守する」、すなわち自衛隊を廃止するか、「現実に合わないルールを変える」かです。私は後者がいいと思います。

冒頭の「日本は大国だと思いますか」という問いに対して、私は「日本は形の上では大国に見えます」と答えます。事実、日本は3大通貨（ドル、ユーロ、円）の中でも強い通貨を持ち、人口はG7（先進7カ国）で2番目に多く、領土に関しては陸は狭いが海域（領海を含めた排他的経済水域）を入れれば世界6位です。大国としての役割を期待されるのは当然です。

しかし、日本は長年にわたって真の平和を考えてきませんでした。そろそろ日本人は目を覚ます時期です。憲法第9条を改正することで、ようやく戦後の占領が終わるのです。

※国際法で不法に戦争を起こす行為を指す

第１分科会

凄いぞ！

相続税申告書システムの新機能

システム開発委員会が企画・運営を担当する第1分科会では、「ACELINK NX-Pro」の相続税申告書の新機能、そして2019年10月の消費税率引上げに伴い、急きょ会計大将の軽減税率対応関連の機能改良についても紹介がありました。ここではその概要をお伝えします。

相続税申告書「試算処理」の画面

講師を務めた笹田 淳先生

講演の最後、壇上に集まったシステム開発委員会の先生方

システム開発委員会は、会員の皆様から寄せられたシステムの改善要望をＭＪＳとともに確認し、要望への対応方法の検討や新システムの開発など、システムの改善につながる活動を行っています。講演の冒頭、システム開発委員会・委員長の外園令明先生の挨拶があり、続いて同委員会・委員の笹田 淳先生が講師として登壇されました。

パート1：相続税申告書 多彩なシミュレーション機能

笹田 淳先生　相続税申告書の新機能の目玉は、「試算処理」です。従来の簡易入力による税額比較を行う「相続税シミュレーションシステム」とは異なり、〝申告書を作成するため〟のシンプルなシステムから、もっと踏み込んで〝提案型〟の「相続税申告システム」へと発展させました。

まず相続税申告書に入っていただくと、「1．通常処理」の右横に「2．試算処理」のタブが追加されています。この試算処理では、遺産分割の試算が5パターンまで作成可能であり、それぞれに名称と説明（概要）を記入することで、おおまかな内容を把握できます。また、財産ごとに誰が相続するかを入力すると、取得者ごとの取得財産の一覧が確認できるので便利です。なお、通常の申告と同様に財産内で分割することもできます。

さらに、小規模宅地等の特例の適用も試算できます。この特例の適用には、特例の対象となり得る財産を取得した全ての人の同意が必要となるので、きちんと相続人を選択しましょう。なお、この試算内容は本申告にも連動でき、申告書作成作業を容易に行うことができます。

次に、試算処理の印刷機能についてです。印刷したい試算パターンを選択し、「試算レポート印刷」のボタンを押下しますが、ここで印刷方法を細かく設定できます。1パターンだけでも相当な枚数になるので、出力範囲を決めて印刷しましょう。印刷帳票の選択時には、「印刷順序イメージ」が表示されるので、随時確認しながら進められて便利です。また、表紙のイメージは8種類から選べ、タイトルや作成日なども自由に設定できます。

そして、決定した遺産分割パターンを申告データに連動させます。連動することで、申告書入力に反映されます。

「二次相続」の試算処理にも対応しました。選択した遺産分割をもとに二次相続試算が容易にできるので、一次相続と併せることで、より付加価値が高く喜ばれるサービスになります。

また、法務局に提出する「法定相続情報一覧図」の作成に対応しており、申出書にも近々対応する予定です。

なお、この10月から相続税申告書の電子申告が始まりましたが、ＭＪＳのシステムはきちんと対応しています。

「ACELINKNX-Pro」の相続税申告書は、ＭＪＳとシステム開発委員会が数年間議論を重ね、作り上げた自信作です。ぜひ一度お使いください。

パート2：軽減税率対応 ミスの防止、負担軽減を重視

それでは、会計大将の軽減税率対応についてご紹介します。この機能改良では、いかにミスを防止し、皆さんの業務負担を軽減するかを重視しました。また、法的要件を満たす元帳の出力や、軽減税率の特例計算にも他社に先駆けて対応しています。

軽減税率が発生する科目についてコードを分けて入力できるよう科目登録を容易にする対応を行いました。対象科目は、福利厚生費、交際接待費、新聞図書費などです。他にも補助や固定摘要で分けることもできます。

科目コード設定では、空いているコードを割り当てることができ、軽減科目は自動的に消費税が軽減８％に設定されます。設定した科目は、試算表上は元科目の次に表示され、決算書上は合計科目がセットされます。

入力時にはファンクションもしくはウインドウ選択方式によって適用すべき税率を選択することができます。

さらに、元帳設定では、消費税法に対応した元帳の印刷が必要となりますが、消費税区分を表示し、帳簿保存方式に必要な要件も満たします。

以上が本日の発表になります。「ACELINKNX-Pro」は、ＭＪＳとシステム開発委員会が長い期間協力して作成している想いの詰まったシステムです。ただし、まだまだ改善の余地はあると思います。会員の皆様からも多くの要望を出してください。当委員会がそれをＭＪＳに伝えます。会員の声でよりよいシステムを作っていきましょう。

第２分科会

お客さま密着！十勝バスの経営

第２分科会では十勝バス（株）代表取締役社長の野村 文吾氏に、同社の再生ストーリーについて語っていただきました。

講演者 **野村 文吾 氏**
のむら・ぶんご
十勝バス（株）
代表取締役社長

1963年帯広市生まれ。小樽商科大学商学部卒。88年国土計画（株）（現（株）西武ホールディングス）を経て、98年十勝バス（株）入社、2003年から現職。他に04年十勝地区バス協会会長、（社）北海道バス協会理事、07年帯広商工会議所副会頭、08年（社）帯広観光コンベンション協会副会長、13年十勝圏二次交通活性化推進協議会会長、14年国土交通省・バスの運転者の確保および育成に向けた検討会委員、18年北海道・過疎地域を考える懇話会委員などを歴任。経営難にあった地方路線バスの再建に成功し、数々のメディアで取り上げられている。

どん底だった路線バス経営

十勝バス（株）は１９２６年（大正15年）創業なので、あと６年で「百年企業」となります。主軸事業は今も昔も「路線バス」です。十勝は１市18町村からなり、路線バスのカバー範囲は14市町村に及びます。

しかし、当社路線バスの利用者数は40年前に比べて80％以上減りました。そして、減収を補うために持っていた資産をどんどん売却し、資産をすべて売却した後は、１台約３０００万円かかる車両更新を引き延ばしながら何とか経営を続けていました。

車両更新を引き延ばしても赤字が埋められなくなると、やむをえず人件費に手を付けました。具体的には５カ年の経営計画で３度、４度、単年度の経営計画で３度、約25年間で60％人件費を下げました。しかし、それでも残ってくれた社員は「地域の足を守らないといけない」という使命感を持って業務に臨んでくれました。今の当社があるのはそんな使命感を持った社員たちのおかげだといえます。

私は１９９８年に十勝バスに入社しましたが、それ以前は国土計画（株）で企画開発の業務に携わっていました。転機となったのは97年、３代目社長だった父に「事業を続けられないから会社をたたむ」と告げられたときのことです。私はその言葉を聞き、自分を育ててくれた地域に恩返しをしようと「俺にやらせてくれ」と言いました。

ドラマだったら、父に感謝されるシーンなのでしょうが、実際はまったくの逆でした。「お前みたいな自分勝手なやつには絶対に無理だ」と突き放されてしまったのです。口論の末に「全責任は自分がとる」という条件で事業を引き継ぐことになりましたが、父はそれから一度たりとも会社のことを教えてくれませんでした。当時は苛立ちもしましたが、父の死後、父が「失敗した人間が教えられることはない」とよく漏らしていたと母に聞き、何となく父の心情を知ることができたように思っています。

営業強化で見えてきたこと

入社後、私は前職で学んだ集客手法を実行しようと提案し続けましたが、「そんなことをしても意味がない」「できるわけがない」などとすべて否定されてしまいました。幹部らが耳を傾けてくれるようになったのは入社から10年が経った頃でした。２００８年に原油価格が大暴騰し、会社がいつ倒産してもおかしくないという状況になってようやく具体的な営業強化に着手できたのです。

まず行ったのは、地域住民への聞き取り調査でした。当初は皆怖がりましたが、実際にやってみると歓迎されることのほうが多く、社員のモチベーションアップにもつながりました。

そして、その中で最大のヒントになったのが、「行き先や乗り方が分からない」という声でした。その声を聞き、私は従来のバス事業者が「利用者はバスの乗り方も行き先も知っている」と思い込んでいることに気付いたのです。実際、バスの乗り方を説明し、路線上にある公共施設やサービスとともに紹介するパンフレットを作成し配ってみると、１年間で利用客が20％も増えました。

その後、当社ではこの取り組みをさらに押し進め、主要路線の観光施設と運賃を組み合わせたマップを作成・配布。その結果、地元客以外の観光客も路線バスを利用してくれるようになって売り上げが伸び、その収益で他の路線の維持が可能になるところまで業績が回復しました。

一方で、路線バスは文字通り「線」でしか結ばれていません。ところが、地域は「面」であり、観光客などにその魅力を十分に発信するには、異なる交通事業者同士が自身の強みを「見える化」し、それを共有した上で連携しなければなりません。

これを実現するために、十勝では北海道庁の「シームレス交通戦略」の下、航空会社、鉄道会社、バス会社、タクシー会社などが協力して観光地や施設などをアピールする全国初となる取り組みが開始されました。十勝バスがどん底から這い上がった取り組みと合わせて、こうした動きについても発信し、他の地域の皆さまに少しでも寄与できればと考えています。

第３分科会

箱館戦争と碧血碑

第３分科会では、学芸員の木村 裕俊氏に箱館戦争とその戦没者慰霊碑「碧血碑」について語っていただきました。

講演者 **木村 裕俊 氏**
きむら・ひろとし
学芸員

1947年、北海道桧山郡江差町生まれ。66年に日本鉄道建設公団に入社。主にトンネル技術者として青函トンネル、東北新幹線八甲田トンネルなどに携わり、鉄道建設所長、工事課長などを経験。2008年に鉄道運輸機構を定年退職、奈良大学に再入学し歴史学を学ぶ。12年に同大学において学芸員資格を取得し、翌年に「平成25年度、神山茂奨励賞」を受賞。主な著書に『箱館戦争と碧血碑』『覆刻版 碧血碑物語』（三和印刷）、『道南十二館の謎』（北海道出版企画センター）、『願乗寺川物語』（長門出版社）、『【現代語訳】新羅之記録』（無明舎出版）、『文献史料で読み解く渡嶋蝦夷』（島本出版）など。

榎本武揚（たけあき）の苦悩

今年は明治２年（１８６９年）に箱館戦争が終わってから１５０周年にあたります。

箱館戦争は戊辰戦争の最終局面で、蝦夷地・箱館を舞台に明治新政府軍と旧幕府軍とが繰り広げた戦闘です。その発端は慶応４年（１８６８年）４月、江戸城無血開城時に新政府が徳川家領・旗本領合わせて７００万石を没収し、徳川家を駿河・遠江70万石に減封したため、約８万人の幕臣たちとその家来、家族など数十万人が路頭に迷うことになったのです。これを憂いた榎本武揚は、蝦夷地に旧幕臣たちを移住させて蝦夷地の開拓と北方警備にあたらせること。旧幕府軍の「賊軍」の汚名を晴らし、徳川家の名誉を回復させることを要求しました。しかし、新政府はこれを拒絶。そこで榎本は８月19日、開陽を旗艦とする８隻の艦隊で品川沖を強行脱出し、仙台を経由して蝦夷地へと向かいました。

榎本軍は当初、無用な戦闘は避ける構えで、箱館府に向けて新政府への嘆願書を携えた先遣隊を送りましたが、新政府側は青森に退避していました。そのため、榎本軍は五稜郭に無血入城し本拠地としました。次に、松前藩にも協力を要請しましたがこれを拒否され、11月５日から松前藩との本格的な戦闘が始まりました。松前藩との戦いでは、榎本軍が圧倒的に強く、11月22日には松前軍を降伏させてしまいました。

しかし翌年、新政府軍の大反撃が始まります。明治２年（１８６９年）４月９日、全国から結集された陸軍兵士約８０００人を蝦夷地に上陸させ、４つのルートから箱館に向けて攻撃を開始しました。迎え撃つ榎本軍は約３０００人とその差は歴然で、いずれの戦いでも撤退を余儀なくされました。５月11日、新政府軍は函館を総攻撃しました。その市街戦は激烈で、遂に土方歳三も、敵弾に狙撃され戦死してしまいました。同16日、千代ヶ岱陣屋の戦いを最後に、榎本軍は敗北を認めて、正式に全面降伏するに至ったのです。

「戊辰戦争」は、どちらにも責任はありますが、新政府は平和裡に「大政を奉還」したはずの幕府に「賊軍」の汚名を着せて徳川幕府を討滅してしまいました。振り返ると、この戦争に至る前に、何回か平和的に新体制に移行することや蝦夷地の開拓を行う機会がありました。新政府は強い政権を作りたかったのでしょうが、偏った強権的方針は、その後の明治日本を「富国強兵を掲げた政策」によって、日清・日露戦争へと突き進ませたのです。

碧血碑をめぐる物語

こうして戊辰戦争が終結した直後、箱館の街中にはあちこちに遺体が放置されたままでした。新政府軍は自軍の犠牲者は手厚く葬りましたが、旧幕府軍の犠牲者はそのままにしていました。これを戦争とは無関係な函館市民が収容し、手厚く埋葬したのでした。中心となったのは大岡助右衛門や柳川熊吉、実行寺住職の松尾日隆の３人の人たちでした。「亡骸に敵味方はない」という人道的な考えからだと言われます。

明治５年に榎本ら旧幕府軍の最高幹部たちが釈放されました。榎本たちがこの話を聞いたのはこの時が初めてでした。大いに感激して函館市民に感謝し、函館の町にできるだけ大きな立派な慰霊碑を作ろうと決心したのだといいます。

その後、旧幕臣の人たちが中心となって、「東京碧血会」を結成し、旧幕府軍に関係する人たちから募金を集め、箱館戦争終焉の地に立派な碑を建てようと計画しました。そして、明治８年（１８７５年）、函館山中腹に「碧血碑」が建てられました。東京で石碑を刻み、その年の５月に函館に運んで組み立て、高さ７ｍの堂々とした「碧血碑」が完成しました。９月14日に最初の慰霊祭を行って以来、今に至るまで休むことなく「碑前慰霊祭」を続けてきました。

箱館の街は早くに国際港として活躍してきたせいか、あるいは高松凌雲の赤十字思想の影響があってか、旧幕府軍の遺体収容には、函館市民の博愛主義的な信条が感じられます。現在に生きる私たちは、この心意気を受け継ぎ、平和への活動に生かしていけるよう、今後とも「函館碧血会」の活動を続けていきたいと考えています。

第４分科会

ようこそ! イランカラプテ 函館の魅力をあなたへ

第４分科会では、函館観光ボランティアガイドの佐藤 喜久恵氏に歴史ロマンの宝庫である函館の魅力をディープに語っていただきました。

仕事の傍ら、無料ガイドボランティア「一會の会」を立ち上げた函館観光の第一人者で、ガイドを養成する講師も務める。豊富な経験に裏付けられた膨大な知識で、歴史の街・文化の街・食の街 函館を案内。楽しい旅の想い出づくりのお手伝いをしている。

講演者 **佐藤 喜久恵 氏**

さとう・きくえ

函館観光ボランティア

「一會（いちのえ）の会」会長

函館発展の恩人

今日は函館のまちに大変革をもたらした二人の人物にスポットを当ててみたいと思います。まずは幼い頃から海に親しみ船を愛し、１７９９年に廻船商人として兵庫から函館に進出してきた高田屋嘉兵衛。嘉兵衛は北前船で財を成しましたが、「函館発展の恩人」とも言われ、市内の井戸掘りや道路の改修、開墾・植林など自己資金によって町のインフラ整備事業を手掛けました。その一環として、函館初の埋め立て事業を手掛けたのもこの嘉兵衛です。当時の函館の地形は現在とは大きく違っていました。かつて函館山は北海道本土からはなれた火山島で、津軽海峡の潮流が運んだ砂が堆積して３０００年ほど前に島は陸続きとなったのですが、江戸時代後期にはその陸続きとなっている部分の幅がほんの５００mほどだったそうです。嘉兵衛は１８０７年、函館湾を埋め立ててここに広い土地をつくり、造船所を建設しました。以後、兵庫から腕のいい船大工を大勢呼び寄せ、官船など多くの船を建造したそうです。

また、嘉兵衛は日本最初の失業対策を実施したことでも知られています。１８１９年の大飢饉の折にはわざわざ海中から大きな奇岩を引き上げる仕事をつくって地域の老若男女や子どもたちを働かせ、これに給金を支払ったのです。この岩は高田屋屋敷の庭石として、後に亀石と呼ばれるようになりました。

函館の教会の魅力

函館大変革に寄与したもう一人は１８５３年、日本に来航したアメリカ東インド艦隊司令長官マシュー・ペリーです。日米修好通商条約の締結を経て59年、函館は横浜や長崎とともに国際貿易港として開港しました。幕府は同様の和親条約をイギリス、ロシア、オランダとも結び、これを受けて函館の町は大きく変わりました。街に出ることを許された外国人たちが市内各所に居留地をつくり、その中に洋風の建物が立ち並ぶようになっていったのです。

また、いろいろな国の教会もたくさんつくられました。それらは現在も残っており、函館の街歩きの大きな魅力となっています。いくつか紹介していきましょう。まずはロシアの函館ハリストス正教会。これは１８５９年、日本初のロシア領事館が置かれた後、その附属聖堂として建てられたものです。61年、管轄司祭ワシイリイ・マホフ神父の後任としてニコライ・カサートキン司祭がやって来て、函館を拠点としたロシア正教の伝道が始まりました。続いて、イギリスからやって来た聖ヨハネ教会。イギリスのエリザベス女王など皇室の会派で、日本の有名どころでは立教大学や聖路加病院がこの会派です。この教会は形が一風変わっており、山の上から見ると屋根が十字架の形をしています。たった一人でこの蝦夷地へ乗り込み、後に『日本奥地紀行』を著すイギリスの女流作家イザベラバードが雨の中ずぶ濡れになって訪れたのがこの教会です。そしてもう1軒のフランスカトリック教会。同じ会派として長崎県の大浦天主堂が有名ですが、日本で唯一ここだけの貴重なものもあります。実はあのローマ法王から直接送られた、素晴らしい祭壇が飾ってあるのです。日本中の教会の中でも最高の祭壇だと言われているので、訪れる際は要チェックです。

寺にも目を向けてみましょう。フランスカトリック教会の道路を挟んで向かいに、重要文化財の東本願寺があります。この寺は何回も火事になり、そのたびに檀家たちは修復のための寄付をしてきました。いつしか「なんとかして燃えない寺に」が檀家さんたちの悲願となり、これが明治時代にかないました。実はここ、日本で最初にできた燃えないお寺、鉄筋コンクリート造りなのです。まだコンクリートが一般的ではなかった時代のことですから、その苦労は並大抵ではなかったことでしょう。

さて、今お話しした中にいくつか「日本初」が登場しましたが、函館には他にもたくさんの日本初がございます。日本一周した洋式帆船やストーブ、コーヒー、ラーメン、そしてコンクリート製の電柱も函館で初めてつくられたのです。開港地ならではの函館の魅力をぜひ見つけてみてください。

懇親ゴルフ大会

参加者100名

10月18日、北海道北斗市にある「アンビックス函館倶楽部」にて、総勢100名が参加し、懇親ゴルフ大会が開催されました。

同倶楽部は、広大な丘陵地の自然を最大限に生かし、ゴルファーの腕と知略を駆り立てるコースを有します。グリーンが常に望めるストレートなホールながら、森や起伏、谷が意外性の連続を生みます。変化に富んだ展開とともに目の前に広がる、のどかな草地や駒ヶ岳、そして函館湾。ホールごとに移り変わる景色が、プレイヤーの目を奪います。

大会の結果は表の通りになりました。表彰式は、常楽 良吉会員の司会、宮崎 英彰大会実行副委員長の挨拶でスタート。宮崎 英彰大会実行副委員長、久保 且佳大会実行副委員長、MJSの大久保 利治取締役（ミロク賞のみ）がプレゼンターとなり賞品授与が行われました。単位会、個人優勝者からスピーチをいただき、最後に次回の全国統一研修会の開催担当となる九州会の先生による閉会の挨拶で終了となりました。

【単位会対抗戦】

順位	単位会	チームスコア
1位	近畿会	71.47
2位	四国会	73.00
3位	九州会	73.80
4位	中部会	73.87
5位	東北会	74.20
6位	北陸会	75.07
7位	北海道会	75.33
8位	関東信越会	75.73
9位	東京会	76.60
10位	沖縄会	76.87
11位	中国会	76.93

【個人成績】

順位	氏名	グロス	HDCP	ネット
1位	吉田 康（四国会）	85	14.4	70.6
2位	植田 順（近畿会）	84	13.2	70.8
3位	吉田 豊道（近畿会）	89	18.0	71.0
4位	甲斐 正信（九州会）	82	10.8	71.2
5位	赤石 雅英（東北会）	91	19.2	71.8
6位	北村 博昭（近畿会）	105	32.4	72.6
7位	横山 武宏（近畿会）	92	19.2	72.8
8位	三浦 利勝（中部会）	91	18.0	73.0
9位	岡崎 克郎（北陸会）	91	18.0	73.0
10位	森内 昭男（四国会）	90	16.8	73.2

1.快晴の中、懇親ゴルフ大会は行われました　2.個人優勝を果たした吉田 康先生（左）とプレゼンターの宮崎 英彰先生　3.単位会優勝を果たした近畿会を代表し、植田 順先生（左）が賞品を受領　4.表彰式の様子

記念旅行

参加者：2泊3日コース53名／日帰りコース37名

●2泊3日コース

今回の記念旅行では、函館とその周辺を3日間かけて巡るコースと、日帰りコースの2つのプランをご用意しました。

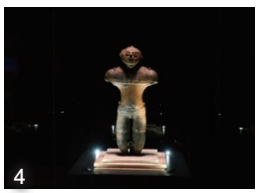
2泊3日コースの初日は、まずトラピスト修道院、次に青函トンネル記念館、第41代横綱千代の山・第58代横綱千代の富士記念館を訪れました。そして日本最北の城郭福山城、通称松前城を訪問。最後に、開陽丸記念館を見学しました。

2日目は、宿泊先そばの大沼国定公園を散策しスタート。続いて、北海道で唯一の国宝「中空土偶」を常設展示する函館市縄文文化交流センターを見学しました。この日は最後に、日本で最初の女子修道院であるトラピスチヌ修道院を訪れました。

最終日は、五稜郭タワーや函館山などを巡りました。そして創業から140年の歴史を誇る洋食の老舗、五島軒で昼食をおとりいただき、全ての行程を終えました。

●日帰りコース

こちらのプランでは、函館市内の有名スポットを一気に巡りました。五稜郭タワーと五稜郭公園、レトロな雰囲気のショッピングセンター・金森赤レンガ倉庫群、多様な宗派の教会が密集する元町エリア、最後に函館山からの眺望をお楽しみいただき、散会となりました。



1.本丸御門が国の重要文化財に指定されている松前城　2.初日の最後に立ち寄った北斗市のきじひき高原（パノラマ展望台）からの夕日　3.道南で唯一の国定公園である大沼公園　4.函館市縄文文化交流センターに展示されている国宝「中空土偶」　5.五稜郭タワーからの眺め　6.金森赤レンガ倉庫群は人気の買物スポット　7.異国情緒あふれる雰囲気の元町エリア　8.抜群の眺望を誇る函館山

月刊税理士事務所CHANNEL　二〇二〇年一月一日発行（毎月一日発行）第四百六十一号　発行　株式会社ミロク情報サービス　〒一六〇―〇〇〇四　東京都新宿区四谷四―二十九―一　電話〇三（五三六一）六三〇九